平成３１年度全国学力・学習状況調査
経年分析［結果の分析］②
我孫子市立白山中学校

H31

＜教科に関する調査の結果にみられる成果と課題＞

国語の調査結果にみられる成果と課題	数学の調査結果にみられる成果と課題
領域等では「読むこと」「伝統的な言語分解と国語の特質に関する事項」が年々伸びてきている。朝読書活動や、語句の意味調べ、漢字小テストを常日頃行っている成果であるといえる。「話すこと・聞くこと」が前年より下がっている。形式では「記述式」が前年より下がっている。	数学全体では前年に比べ落ちているが、領域等では「関数」が前年よりも大きく伸びている。授業の中で多様な関数のグラフについてどう読み取れるかを話し合い、議論したことが、関数の深い理解につながっていると考えられる。記述式の問題では無回答率は低いものの、正答率は低くなっているため、筋道を立てて論理的に説明する力を育てていく必要がある。領域では「資料の活用」が大きく下がっており、課題であるといえる。

＜質問紙調査の結果にみられる成果と課題＞

学校質問紙調査の結果にみられる成果と課題	生徒質問紙調査の結果にみられる成果と課題
学級活動や職場体験などで将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしており、将来の夢や目標を持っている生徒が多いことにつながっていると考えられる。授業では課題解決に向けて自ら考えさせる指導をしており、生徒もその実感を得ている。一方で学級をより良くするための話し合いや取り組みを設定しているものの、それによって達成感や成就感を得ている生徒は７割程度で、全国に比べて低い結果となっている。その他「地域の人材施設の活用」「個に応じた指導」には去年に引き続き力をいれている。授業においてICTを活用する頻度は他の学校に比べ少ないため、場面に応じたICTの活用方法について職員で共有し、授業展開の手法の幅を広げていく必要がある。	基本的生活習慣は去年同様全国よりも少々乱れが見られる。去年に比べ夢や目標を持っている生徒は増えており、キャリア学習で将来について考えさせる機会を十分に取った成果であるといえる。自己肯定感は全国と比べ去年と大差ないが、先生から認めてもらえてない感覚を持つ生徒は増えている。またいじめは絶対に許されないものであるという感覚が去年に比べ低い。学習に意欲的な生徒や学習の必要性を感じる生徒は例年に引き続き全国よりも多いことが見て取れる。

＜改善策・検証方法＞

改善目標	改善方策（どのような取組を いつ・どの程度 行うか）	検証方法（ いつ・どのように検証・評価するか）
（国語） 「記述式」の問題の正答率を上げる。	（国語） 読書活動を更に活発化し、良い文章表現に触れさせる。また、自分の思いを明確に文章にまとめられるように、条件を付けた短作文を書く指導を定期的に行う。	（国語） 定期テストや学力調査の結果により検証・評価する。
（数学） 「説明する」問題の正答率を上げる。	（数学） 授業の中で、「他の人へ説明する」場面を設定する。また生徒が学習課題を設定できるよう素材を工夫し、対話する必要性を作り出す。授業の最後には毎時振り返りを記入することで、学んだことを言葉で整理する習慣をつける。	（数学） 実力テストや到達度テストの結果及び授業内でのグループ学習の様子、振り返りシートの記入内容から評価・検証していく。

備考